

提 案 概 要

実施期日	7月29日(火)【午前】
部 会 名	小学校 外国語活動部会

1 提案テーマ 『児童とともに楽しむ外国語活動の授業づくり』

2 単元(題材) 「地図記号・方角」

3 学年 第5学年

4 平成25・26年度神奈川県小学校教育課程研究会研究主題とのかかわり

- ② 言語や文化について、体験的に理解を深める学習指導、評価及び教材・教具の工夫
 - ・外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる指導・評価の工夫
 - ・日本や外国の文化を知り、多様なものの見方や考え方があることに気付かせる教材・教具の開発や工夫

5 学習指導要領との関連(内容項目)

第4章 外国語活動 第2 内容 [第5学年及び第6学年]

2 日本と外国の言語や文化について、体験的に理解を深めることができるよう、次の事項について指導する。

- (1) 外国語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気付くこと。
- (2) 日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知り、多様なものの見方や考え方があることに気付くこと。

6 実践に向けての課題意識

スキル向上を重視しすぎたり、基本的表現の習得に偏重して指導することは、小学校外国語活動には適していない、と考える。学習指導要領の目標における『コミュニケーション能力の素地を養う』こと、また、本市で作成した小学校外国語活動ガイドラインにおける『外国語活動は、英語のスキルを教えることではなく、コミュニケーションの体験を通して(中略)、児童の他者理解や自尊感情を高めることを目指す。』ことが重要である。コミュニケーション能力の育成、自尊感情の醸成等が外国語活動においても求められている。本校では、表情やジェスチャーなどの視覚情報を活用した言語活動を積極的に取り入れている。そこで、友達や先生の言葉や行動にどのような思いが込められているのかを考えたり、相手の気持ちを受け止めたりして、それに応じた態度が表現できることの大切さを理解してほしいと思いながら授業づくりを行った。本校は、何事にも意欲的に取り組む児童が多く、発展的な課題をグループで協力して解決しようとする姿が見られる。とりわけ外国語活動においては、その傾向がより顕著である。そこで、題材や教材を工夫することで、より児童たちのコミュニケーション活動を活発にできるのではないかと考えた。

7 実践の概要

○指導方法の工夫

- ◆既習の学習内容、身近な学習内容を言語材料として扱った。(地図や地図記号)
- ◆ティーチャーズトーク(英語口述)を用意し、担任はできる限り英語でコミュニケーションを図った。
- ◆言語や文化を体験的に理解する活動を行った。

8 成果と課題

○成果 他教科で児童たちの関心が高かった題材を使い、提示の仕方を工夫することで、あらゆる学習段階にある児童の知的好奇心を刺激することができ、児童たちが自ら考え判断していく様子も見ることができた。

また、教材の工夫により、無理なく異文化理解につなげることができた。

○課題 児童たちは、意欲的に取り組んでいたが、期待したほど活発なコミュニケーション活動はできなかった。もっとシンプルな教材を提示したり、児童たちの多様な発想に適した言語材料を用意できたりすれば、さらに学びは深まり、コミュニケーション活動の活性化が図れたのではないかと思う。

9 予想される協議の柱

- ・児童が興味関心を抱き、コミュニケーション活動の活性化を図るための題材や教材の工夫について
- ・他教科との関わりについて